

南方に眠る

父を訪ねて

●永井義時さん
●井上徳子さん



永井さんと井上さんのお二人は、ミャンマーで亡くなったお父さんを巡礼するために、大分県遺族会連合会が今年の2月に実施したミャンマー地域慰霊巡拝に参加してきました。

■今回の行程

	月日	移動	スケジュール
1日目	2月28日(土)	福岡空港からタイのバンコク経由でミャンマーのヤンゴンへ	移動日
2日目	3月1日(日)	ヤンゴンからバゴへ	バゴへ移動途中、オカラッパ日本人墓地で慰霊祭 バゴにて慰霊巡拝
3日目	3月2日(月)	バゴからヤンゴンへ	シッタタン河畔にて慰霊祭
4日目	3月3日(火)	ヤンゴンからタイのバンコクへ	市内観光
5日目	3月4日(水)	バンコクから福岡空港へ	移動日



永井 義時さん
(75歳・国東町鶴川)

国名が変わり、父の亡くなった地名は存在しなくなり、今回現地の人に聞いてもわかりませんでした。しかし、父の亡くなった国に來られただけでも幸せでした。今回來られなかった姉や妹の分も、しっかりと祈って来ました。



井上 徳子さん
(70歳・国東町鶴川)

母から聞いた父親の記憶。いっかきと、父親の亡くなった地を踏みたいと思っていました。母親を連れてくることは叶いませんでしたが、母親と一緒に来た気持ちで、ミャンマーの土をしっかりと踏みしめました。

戦争特集 語り継ぐ70年前の記憶

1 最初の慰霊祭をしたオカラッパには、広大な土地に立派な碑があり、現地の墓守が管理をしていました。手厚く祭られていることを実感することができました。



2 次のバゴでの慰霊巡拝では、現地の子もたちも見守ってくれて、ミャンマーの人たちの心の温かさを感じることができました。



3 最後に慰霊祭をしたシッタタン河。広大でまるで海のような様子。追い込まれた日本兵が、この河に阻まれ、ここで多くの方が命を落としたのかと思うと自然と涙があふれました。



戦争特集 語り継ぐ70年前の記憶②

映画「アオギリにたくして」の 上映にかける想い

アオギリ会
衣笠 邦彦さん(56歳・国見町伊美)
松岡 照美さん(57歳・国見町伊美)

衣笠さんと映画「アオギリにたくして」の出会い、1年前に知人に勧められて行った別府市の映画館でした。

広島で被爆したアオギリの木。その苗を全国に植樹する活動にゆかりのある被爆者の女性。この女性の生涯をモデルにした映画に感銘を受け、この映画のプロデューサー中村里美さんに連絡をし、上映する許可をもらいました。

昨年の12月に同志を募るため



試写会を行い、アオギリ会を結成しました。

そして、今年6月28日に、国見町のみなんかんで上映会を行い、次の日には被爆アオギリ二世の会植樹会を開催しました。

お二人は、「今回のイベントで一区切りついたが、もっとこの映画を多くの人に観てもらいたいの、今後も場所や人数を問わず、上映会の要望があれば、すぐに対応していきたい」と抱負を語っていました。

2人に残る
ミャンマーで戦死した
父親の記憶



永井 義人さん
陸軍伍長
明治39年生まれ
義人さんは、昭和16年に出征。義時さんは、



井上 直徳さん
陸軍伍長
大正10年生まれ
直徳さんは、昭和19年に結婚しました。その5か月後に、召集令

昭和15年に生まれたので、父の顔は憶えてはいません。
義人さんは、昭和20年2月2日、ビルマ国(現ミャンマー)の南シヤンシュ、ロイレイで、本部付けの運転手の任にあたっていたところ、飛行機に襲撃され、戦死されたそうです。

状が届き、出征。その時、徳子さんはお母さんのお腹の中にいたそうです。
直徳さんは、昭和20年5月、ビルマ国(現ミャンマー)のキャウザ南方高地において戦死。残された家族は、直徳さんが戦死されたことをなかなか受けとめることができなかつたそうです。